

## 令和 7 年小値賀町議会定例 6 月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質問の 相手
江川 春朝	<p><b>北松西高等学校の今後について</b></p> <p>北松西高等学校は現在、存続の危機に直面している状況にある。今後、授業単位の取得方法や、多様な生徒の受け入れを、考える必要があるのではないか。</p>	教育長
	<p><b>ゴミ焼却炉について</b></p> <p>焼却炉に関して、私自身何度も一般質問で取り上げ、建設課と共に熱分解処理装置の、実稼働機を視察し、本町へ導入まであと一步の所まで来ていると思うが、現在の進捗状況と、今後の見通しを伺う。</p>	町 長
森岡 正雄	<p><b>老朽化した水道管の更新工事について</b></p> <p>今年 1 月 28 日、埼玉県八潮市にて水道管の老朽化が原因と見られる道路の陥没事故が発生した。この事故により、トラック運転手 1 名の尊い命が失われたことは大変遺憾に思う。</p> <p>上水道管の耐用年数は 40 年、下水道管は 50 年であるが、全国各地に未更新の水道管が多いと聞く。このままでは第二、第三の八潮市と言われる事故がいつ起きてもおかしくない状況だ。</p> <p>簡易水道の接続率が 100%、下水道の接続率が 73%の本町においても対岸の火事とは思えず、町民に安心して暮らして頂けるよう、町長に以下の 5 点を質問する。</p> <p>① 本町の簡易水道工事は昭和 30 年初期に始まったと聞く。 その都度更新されて来たものと思うが、現在の進捗状況を伺う。</p> <p>② 現在耐用年数を超えた水道管はどの程度あるか。</p> <p>③ 今後の更新工事の計画はどうなっているか。</p> <p>④ 本町において同様の事故は起きないと言い切れるか。</p> <p>⑤ 万が一、同様の事故が発生した場合、本町の対応はどうなるか。</p>	町 長

	<p><b>自力で島外の病院に通院できない町民に対する補助について</b></p> <p>高齢化が進むにつれ、島外の病院へ通院する町民が増えて来ている。中には車椅子や介助なしでは船の乗り降りができない町民もおり、家族の付き添い、船会社船員のサポート、また佐世保の福祉会社に依頼をしてどうにか通院している状況だ。特に透析患者の通院は月に13～14回になり、付き添いをする家族にも大きな負担となっている。</p> <p>こうした現状を踏まえ、少しでも患者やその家族の負担軽減に繋がられないかと考え、町長に以下の3点を質問する。</p> <p>① こうした現状をどう思うか。  ② 付添人の船賃を補助する考えはあるか。  ③ 介助に掛かる費用の補助をする考えはあるか。</p>	町 長
小辻隆治郎	<p><b>第1次産業従事者の減少に伴う5～10年後を見据えた対策と地域おこし協力隊員の増員について</b></p> <p>しばらく前までは小値賀の基幹産業であった漁業、農業、ひいては商店街の後継者不足による担い手の減少が著しい。漁業者の107名中、65歳以下は26名、畜産生産者32名中、50歳以下は10名、メロン農家に至っては14名中、70歳未満は4名で深刻さがわかる。商店街は日中人通りは閑散としており、活気がない状況である。そこで、町長に次の2点について伺う。</p> <p>(1) 漁業、農業、メロン農家、商店街のそれぞれについて、今後5～10年内の生産者増加策や商店街活性化策についての構想はどのように考えているのか。</p> <p>(2) 地方を元気にする目的で創設された「地域おこし協力隊」制度の活用が不十分と思う。漁業、農業、メロン農家、商店街についても地域おこし協力隊を多数参加させ、ミッションの中に技術の習得等に配慮したプログラムを組むなど、定住化の仕組みづくりも考えたらどうか。</p>	町 長

<p>今田 光弘</p>	<p><b>北松西高等学校を残すために更なる努力を</b></p> <p>先日の中高合同体育祭で、北松西高生が値中生を率いて盛り上げる様子を目の当たりにし、あらためて本町の教育環境の維持に対する責任と重要性を再認識した。</p> <p>① 入寮者を段階的に高校生に特化してはどうか</p> <p>寮の部屋数が限られている。現在いる留学生と同学年以上の生徒を募集し、数年後に入寮者を高校生に特化してはどうか。</p> <p>② 留学生向けの HP を</p> <p>北松西高校に興味を持ってくれた生徒を留学まで誘導するための有効な仕組み作りが重要だ。高校だけでなく、本町全体の魅力を効果的に伝える新たなウェブサイトの構築が必要ではないか。</p> <p>③ 留学生を増やすためのロードマップを</p> <p>先の会議において、町長は新たな寮の建設という選択肢も排除しない旨を答弁された。応募者数が増えてから新たな寮の整備を検討するのではなく、新たな寮の整備を目標としたロードマップを予め作成することが望ましいのでは。</p> <p>④ 「孫留学」の対象枠を広げては</p> <p>対象者は孫だけでなく三親等以内というが、ネーミングを変えて 四親等にも広げて幅広く募集してはどうか。</p> <p>⑤ 「親子留学」の仕事と住居の確保に工夫を</p> <p>仕事に関しては、町内で不足している職種を明示するなどの対策を、住居に関しては、町が空き家をリノベーションし、その家賃を補助する制度を導入してはどうか。</p>	<p>町 長 教育長</p>
--------------	---	--------------------

立石 光助	<p><b>福祉人材不足の現状と持続可能な確保・定着戦略について</b></p> <p>本町では、高齢化の進行と生産年齢人口の減少により、高齢者介護・保育・障害者支援など福祉分野全般で深刻な人材不足が生じ、町民生活への影響が懸念される。特に、介護職員・保育教諭等の専門職確保は喫緊の課題である。そこで、以下について、町の認識と具体的な対応を問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉分野における職種別の不足数、充足率、離職率等の現状と、サービス提供への具体的な影響は。</li> <li>2. 現行の人材確保・定着策、町内の介護事業者（個人の民間事業者も含む）間の連携体制の現状および成果と課題は。</li> <li>3. 他の離島・過疎地域での成功事例 {住居一体型支援（高知県梶原町）、地域おこし協力隊の専門職活用（鹿児島県十島村）等}、介護補助テクノロジーの活用や、県・国の多様な支援制度の本町における導入・活用計画はあるか。</li> <li>4. 移住促進や地元人材育成を含めた、福祉人材確保・定着のための中長期的な計画を策定する予定はあるか。もしある場合は、具体的な数値目標、予算措置、推進体制は。</li> </ol> <p>町民が安心して暮らし続けられる福祉サービス提供体制の確立に向け、町の明確な方針と実効性ある取り組みを求める。</p>	町 長
-------	---	-----

